

(社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会
第 32 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2013 年 8 月 6 日 (火) 13:30~16:00
2. 場 所 (社) 原子力安全推進協会 1,2 会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 三山 (幹事), 望月, 吉永 (広木代理), 檜田 (矢野代理), 下家, 新立 (猿渡代理), 内藤 (臼井代理), 萬年, 大城戸, 木谷, 伊藤, 新井, 中野, 一森, 松本 (松浦代理), 上坂 (18 名)
(欠席委員) 大木, 橋高, 遊佐, 皆川 (4 名)
(常時参加者) 鈴木, 田村, 田畑, 平田, 本間, 中川
(傍聴者) 伊藤
4. 配布資料
資料P14SC-32-1 第31回PLM分科会議事録案
P14SC-32-2 人事について
P14SC-32-3 本格改定の課題フォロー表
P14SC-32-4 IAEA I-GALL知見に係るPLM基準への反映
P14SC-32-5-1 高経年化対策実施ガイドラインとPLM基準本格改定案との比較
P14SC-32-5-2 PLM実施基準2013年版 附属書D (案)
P14SC-32-5-3 PLM実施基準2013年版 (案)
P14SC-32-6 システム安全専門部会本報告案
P14SC-32-7-1 経年劣化メカニズムまとめ表2014年版 (追補1) 案の確認状況
P14SC-32-7-2 経年劣化メカニズムまとめ表 (安定停止の維持) の作成方法 (案)
P14SC-32-8 PLM実施基準改定のスケジュール

P14SC-32-参考1 経年劣化メカニズムまとめ表 (安定停止の維持) の作成方法 (案) (P14SC-31-9)
P14SC-32-参考2 原子力発電プラントにおける減肉配管の耐震安全性の簡易評価手法に関する研究

5. 議事

会議に先立ち、出席委員は18名で、定足数を満足している旨確認した。

(1) 人事 (P14SC-32-2)

中部電力の山田委員の退任が報告された。

中部電力の伊藤氏の委員新任及び原子力規制庁の平田氏の常時参加登録が承認された。

(2) 附属書 D (P14SC-32-5-2)

D.5.1.1.3 評価に用いる地震力と添付1 減肉配管の耐震安全性評価の方法について改定案の説明があり、引用文献の内容を含め各自確認することとなった。主な変更内容は以下の通り。

- ・新規基準で S_s , S_d , 静的地震力を含めバックフィットするということになったため、D.5.1.1.3 評価に用いる地震力を変更した。
- ・減肉配管の簡易評価手法について、機械学会に投稿した論文 (P14SC-32-参考2) に記載の評価手法を附属書 D 添付1 に反映した。

(3) 前回議事録確認 (P14SC-32-1)

幹事より、第31回 PLM 分科会議事録(案)が紹介され、承認された。

(4) 本格改定の課題フォロー表 (P14SC-32-3)

フォローが必要な項目はあるが、反映できるものは全て反映済みであることが報告された。

(5) IAEA I-GALL知見に係るPLM基準への反映 (P14SC-32-4)

前回確認した後に更新されたI-GALL表の案を確認し、新たに追加が必要な項目はなかったことが報告された。

AMP, TLAAについては8事象に対し反映の検討を行ったが、反映が必要な項目は抽出されなかったことが報告された。

テンドンの緊張力低下関連で附属書Eに記載の語句の確認を行うこととなった。

(6) 高経年化対策実施ガイドラインとPLM基準本格改定案との比較 (P14SC-32-5-1)

高経年化対策実施ガイドラインの PLM 基準への反映要否の検討結果が報告された。反映が必要な項目として、評価対象設備(浸水防護施設, 重大事故対処設備), 耐津波安全性評価の2点が挙げられた。

本資料では「高経年化対策実施ガイドライン」との記載があるが、正式な名称は「高経年化対策実施ガイド」であるため、基準の中で同様の表現を使用していないか確認することとなった。

(7) PLM実施基準2013年版（案）（P14SC-32-5-3）

評価対象設備（浸水防護施設，重大事故対処設備）及び耐津波安全性評価の規格案への反映案が説明された。具体的な評価実績がないため，高経年化対策実施ガイドで要求されている記載としている。審査ガイドにある津波監視設備を耐津波安全性評価対象とする必要がないか確認することとなった。

(8) 本報告案（P14SC-32-6）

システム安全専門部会本報告案が説明された。今回の分科会でのコメントを踏まえ修正し，メールで委員に確認した後に本報告を行うこととなった。I-GALLについては，AMP，TLAAの検討について丁寧な説明内容に修正を行うこととなった。

(9) 経年劣化メカニズムまとめ表2014年版（追補1）案の確認状況

現状（伊方2号及び美浜2号（40年目）の知見を反映した詳細版ドラフトの確認実施中）が確認された。

(10) 経年劣化メカニズムまとめ表（安定停止の維持）の作成方法（案）（P14SC-32-7-2）

まとめ表のサンプル（ポンプ，熱交換器，コンクリート，計測制御など）を作成して検討した経年劣化メカニズムまとめ表（安定停止の維持）の作成方針が説明された。その方針を基に，2F-2評価書を踏まえて整理方法の検討を行い，作成することとなった。本資料中では『安定停止の維持』という言葉を使用しているが，高経年化対策実施ガイドでは『冷温停止の維持』を使用しており，どちらを使用するか検討することとなった。

7. 今後のスケジュール等

I-GALL のスケジュール次第で調整が必要となるが，9月の専門部会で本報告を行うこととなった。

次回分科会は10月に予定し，メールにて日程調整することとなった。

以 上